

山麓も立冬を過ぎ、綾なす紅葉も一段と鮮やかさを増しつつある。執務室の窓から眺める丈1m余りの栴の葉が日を追う毎に色づく様を眺めつつ、秋の進行を感じる昨今である。本日（11月10日）、機会あって晩秋の足柄路を小山町方向から南足柄市方面に抜けた。峠の8合目付近の紅葉は今が盛りか、最高の保養が出来た。また、時を同じくして、夏山登山の繁忙期を終えた須走宿も、今は静かに、来るべき冬に備えた諸準備が進行しつつあるようだ。

① 富士山眺望の湯 「ゆったりプラザ」

富士紀行35号で富士山麓の天然温泉で富士山を望みながらゆったりと温泉を楽しむことの出来る温泉を紹介したが、申し訳なきことながら、以前話には聞いていたが、駿河小山駅近く、鮎沢川沿いに（旧246号線沿い富士見橋を渡るとすぐ）瀟洒な「小山町健康福祉会館富士見センター」があり、その3階に「ゆったりプラザ」がある。鮎沢川の紅葉と展望風呂から小山町役場越しに見える富士も絶景である。もし、貴方が、鮎沢川に住みついた白鳥に遭えたならば、素晴らしい幸運の持ち主である。入浴料金も2時間で200円、6時間で500円だと割安である。年末・年始と第1・3月曜日が休みである。因みに営業時間は1000から1900である。営業時間を延長して貰いたいとの声もあるようだ。温泉としての営業開始は平成13年3月27日である。健康福祉会館のオープンはそれより早く、12年4月1日である。

② 紅富士礼賛

晩秋の候となると天気も比較的安定して、富士山も良く顔を出して呉れる。旭光が富士山に反映して、紅富士が現出する機会が多くなった。起き掛けに紅に焼けた富士に感謝を捧げることが出来るのは当地に住まいする者の特権だろう。デジカメ初心者は上手に撮れないので、皆さんに披露出来ず、申し訳ない。

③ 富士山入込者数の決算

夏山シーズン（7月及び8月）の富士山5合目入込者数が平成13年は大幅に増加に転じた。静岡県側、の須走、富士宮、御殿場では、合計384,887人で、前年比7.9%増である。因みに須走口では、5.6%増の85,692人である。入込者のカウントは、バス利用者数、山小屋関係者のカウント、駐車台数などを基に算出している。面白い事に登山口毎に算出方法が異なるのだそうだ。（以上静岡新聞記事から）

山梨県側の入込者は、富士吉田口と河口湖口の合計で、134,529名であり、昨年度に比し、2万名強落ち込んでいる。理由は定かではないようだ。（参考：安全指導センター資料）従って、今年度、夏山の富士山入込者総数は約52万人である。

④ 管理部輸送課の善行

富士駐屯地では、月に一回の統一環境整備日を設定して、駐屯地内の環境整備を職員総出で実施している。この統一環境整備日を利用して、輸送課長以下輸送課の操縦手等諸官が塵拾いを行っている。確かに小生も時折通過するが、富士学校正門から直進して東富士五湖道路との交点までの間の道路の両脇には恥知らずなドライバーが投げ捨てたであろう空き缶やビニール袋が散乱している。この清掃を発想した輸送課長（自らも官舎から正門までの間の清掃を毎朝行っている）は、“同じ操縦を任とする者として恥である、同じドライバーの恥を注ごう”と、この清掃を思いついたと云う。渋滞路線の路側帯に

残された夏の残骸を始末するのも晩秋の光景だ。(余り誉められた光景ではないのだが・・・)